

しくお願いいたします。

次に、デジタル地域通貨「ながいコイン」についてであります。これは、まず最初にポケットサインでありますけれども、登録者も400名ぐらいということで、これから増えていくのかなと思っております。このたびあやめR e p oのほうにも早速ネクストステージということで出していただいたということで、この物価高騰対策の1万2,000円というところと併せて、広く広がっていけばなと思うところであります。

私も登録させていただきました。携帯にマイナンバーカードをかざすだけで登録できるというところもありますし、そうしますと、付与に関する手間、先ほどといいますか、午前中に鈴木英則議員からもありましたけれども、そういった部分での付与も早くなると思いますし、まず、物価高騰対策として長井市は本当に早くやっていたいただいわけでありまして、そういったところで、スムーズな、早くというところで、今後に期待するところであります。

そして、原資ですね。これはいろいろところで地域未来交付金でしたっけ、それなんか使っているところもありますし、これは自治体の単独予算でなかなか難しいのかなとは思いますが、例えばコミセンでの事業でありましたり、地域のスポーツだったり、あとは健康増進、そして、例えば、市長も言っておられましたけれども、ボランティアとか、こういったところでもポイントがついて、地域が活性化するような、そういった取組につながればいいのかなと思っております。

私は今回、地域がよくなるため、そして物価高騰対策として、地域内循環していくことが望ましいなど、そういった気持ちで質問させていただいたところでございます。今後とも長井市の施策がさらに進むことをご祈念申し上げまして、質問を終わります。

鈴木富美子議員の質問

○内谷邦彦議長 次に、順位9番、議席番号9番、鈴木富美子議員。

(9番鈴木富美子議員登壇)

○9番 鈴木富美子議員 とともに長井の鈴木富美子です。

3月に入り、春の足音が聞こえる今日この頃ですが、週末にはまた雪マークもあり、寒暖差により体調崩さないよう、皆さん気をつけていただきたいと思います。また、あさっては公立高校の受験日です。受験生の皆さんには、万全な体調で試験に臨んでいただきたいと思います。そして、満開の桜が咲くことをお祈りいたします。

このたびの質問は、将来の小学校の在り方と持続可能なインクルーシブ社会の見通しについてお聞きいたします。

初めに、将来の小学校の在り方についてお聞きいたします。

長井市のホームページを見ますと、今年度は令和6年度末に比べ、世帯数52減の9,994戸、人口は315減の2万3,895人となっております。年代別に見ますと、最も多いのは65歳から79歳となっております。以上のことから、今後の地域社会を考える重要な時期に来ていると思います。そのうち、特に懸念されるのは、統合しないで続けていく小学校の在り方だと思います。市長のお考えは、地域を衰退させないためにも、地域から小学校をなくさないということですが、今後10年先を見据えたとき、複式学級のある学校も出てくるでしょうし、学級数が少なくなれば先生の数も減ってくるなど、そうした課題が考えられます。

長井市では、現在の伊佐沢小学校のように、英語に特化した授業をすることで中学校に行っ

でも英語の授業に自信が付き、自分から進んで外国人に話しかけることや、英語検定を積極的に受検するなど、小規模校だからできる学校づくりが行われ、すばらしい成果が出ています。児童数が減少する将来に向けて、このような成果をほかの学校にも広げていくことを考えているのではないのでしょうか。

また、児童センターや保育園の園児数が減少していることも課題です。それについては今、長井市が進めている小学校学童保育など現在ある建物を有効活用し、地域が連携して子育てに関わっていく仕組みは効果的だと考えます。将来を見据え、幼・保・小・学童クラブなどが連携を深くしていくことについて、教育長のお考えをお聞きいたします。

次に、インクルーシブ社会の実現とコンサート及びオペラについて市長にお聞きいたします。昨日の梅津善之議員と重複した質問になることになりましたが、よろしくお願ひします。

昨年は音楽を基軸とした事業であるスタインウェイフルコンサートピアノを活用したコンサートやラインベルガーにちなむ音楽の公演がありました。多くの市民が文化芸術に触れる機会になったことは大変よかったと思っております。

そこで、9月に計画されているオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」についてお聞きいたします。

20年前に公演した「ゼッキンゲンのトランペット吹き」は市民の手作りと私は思っていたのですが、昨日の答弁で瀧井先生のお力添えや市内の企業の皆様のお力もあつたことをお聞きしました。このオペラは、国際交流がきっかけだったと私は思っております。今回はインクルーシブ社会の実現に向けた取組を国内外に発信することを目的としています。

インクルーシブな社会の実現はすばらしいことだと思いますが、今回の公演がその実現を表現するものだけということでは、少し疑問を感じ

ております。障がい者が主役となるようなコンサートであればとも思いますが、インクルーシブな社会の実現をどのようにお考えか。また、コンサートでそれをどのように表現していくのか、市長のお考えをお聞きいたします。

また、この一連の公演は、短期的なものではなく、継続していくお考えもおありかと思ひますが、そのためにはそれなりの予算も組織も必要かと思ひます。そうしたことについて、市長のお考えをお聞かせください。

以上で壇上からの質問を終わります。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員から大きく2項目にわたってご質問、ご提言いただきました。私のほうへは、2点目のインクルーシブ社会の実現とコンサート及びオペラの開催についてということで、考え方をお尋ねいただきました。

インクルーシブ社会の実現をどのように考え、コンサートでどう表現するのか、また、継続する際の予算や組織をどう考えているかということでございます。

昨日の梅津議員のご質問でもお答えいたしましたので、かなりの部分が重複いたしますが、ご承知お願ひしたいと思ひます。

長井市の姉妹都市であるドイツ連邦共和国バートゼッキンゲン市を舞台としたオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」は、ちょうど20年前の多分10月だったと思ひますね。選挙だったものですから、私も申し込んでいたんですが、やめました。駄目だったんです。それでよく覚えているんですけども、2006年に現在の長井市特別名誉市民である、そして長井市の音楽芸術アドバイザーをお願ひしております瀧井敬子先生から日本初演を行うのであれば、東京ではなく、姉妹都市である長井市でぜひにという強いご支援とご助力を得て、当時、長井市民文化会館を会場に日本初演として公演を行ったものでございます。戦前は行われていたオペラですけ

ども、結構人気があったと聞いていますけどね、古くから。戦後初めてだったので、そういった意味では、瀧井先生の後でお話を聞きますと、東京で大きいよいところで何とかできないかと思っていたという話もお聞きしたんですけども、縁のある長井でということで、長井で初演をすることができたわけです。

ちょうど初演から20年目の節目となる今年の9月5日土曜日と6日の日曜日に、同じ長井市民文化会館を会場に、再演することを計画しております。このたびのオペラ公演も2023年10月瀧井先生からスタインウェイのフルコンサートグランドピアノのお心遣いを賜りましたことを契機に、このピアノを活用し、全ての市民の皆様に音楽を通じて幸せを感じ、長井に住んでよかったと思っていただけるよう、特に特別支援学校や障がい児、障がい者の施設を利用されている方をはじめスタッフの方、介護・介助の支援を受けている方は、介護・介助をなさる皆様自身が幸せでなくては結果的に十分な助けを受けられないという瀧井先生のアドバイスから、福祉施設や教育関係の皆様を積極的に、障がいをお持ちの方ではなく、支える人たちも招待しているという点がほかのところとちょっと違う点だと思います。障がい者はもちろんなんです、インクルーシブというのはもう全てと、それを支えている人にもという意味で積極的に今回も招待をいたしまして、演奏会を開催しております。

2023年の11月のヴィルコメン・イン・長井、ようこそ！！619125番目のスタインウェイピアノお披露目コンサートを皮切りに、昨年12月のコンサートで15回の開催を数えました。さらにはグラチア音楽賞受賞者による特別支援学校でのアウトリーチを5回、市議会議場でのコンサートも3回実施いたしておりますが、インクルーシブ、ダイバーシティの理念を踏まえた一連の取組の一つとして、このたびも行う予定のも

のでございます。

20年前は、市民文化会館が改修前でしたので2日間で約1,500人の皆様に鑑賞いただきましたが、今年は席数が減少しておりますので、2日間で1,200人程度の方々にお楽しみいただけるのではないかと想定しております。

実施体制や予算について説明をさせていただきます。長井市が主催として行う20年前も今年も、基本的な実施体制はほぼ同じでございます。しかしながら、前回から数えて20年目になりますので、キャストの関係者は大幅に替わっております。メインキャストとなる歌手の方々は、現在このオペラの曲にマッチする歌声をお持ちの東京等でご活躍の歌手の皆様を瀧井敬子先生自らご推薦いただいております。40から50人程度となる合唱団員につきましては、前回も今回も長井市内や県内の方が中心でございます。今年は特にリヒテンシュタイン公国の作曲家であるラインベルガーの曲に取り組む地元合唱団、RHEINBERGER Chor Nagaiの皆様を中核に、希望者を募りながら、編成をいたしたいと計画しております。

また、オペラピットを用いる本格的なオペラですので、管弦楽は山形交響楽団が担い、舞台装置や衣装、字幕、照明などの舞台関係事業者は、プロポーザル方式により選定したいと考えております。しかしながら、地元の方が参加される合唱団の衣装やヘアメイクなどは、ボランティアを募りまして、長井市民の皆様にも一緒につくり上げていただきたいと構想いたしているところでございます。

予算面でございますが、20年前は現在残っております資料を見ますと、総額2,500万円程度を要しておりました。20年の時を経て人件費やその他の物価が上昇していることもあり、さらに今年はまだちょっと充実させようということから、約2倍となる5,000万円を超える額となっております。

財源でございますが、20年前は入場料と芸術文化振興基金あるいは民間企業の文化財団等から助成金並びに市内企業及び市民の皆様、そして、瀧井先生からのご寄附が大宗を占めておりました。今年の9月に開催する分につきましては、2年前にデジ田交付金の採択をいただきまして、名称と制度設計が変更になりましたが、今年から地域未来交付金に引き継がれましたので、実質の主の負担が1割となる地域未来交付金の支援を受け、入場料も頂きながら開催したいと計画しております。

なぜ20年前に長井市でこのオペラが開催されることになったのかの詳しい経過については、昨日の梅津善之議員への答弁の中で説明させていただきましたので、省略をさせていただきます。

最後になりますけれども、ダイバーシティ、そしてインクルーシブなまちづくりを目指し、性別、年齢、国籍、障がいの有無など、様々な背景や特性を持つ人がいらっしゃる多様性社会の中で、誰もが能力を発揮し、一体感を感じて活躍できるよう、個性を認め合い、共に生かすことができるきっかけとなるような取組を今後も継続してまいりたいと考えます。

このたびのオペラ公演に当たりまして、誰もが鑑賞できるように企画しておりますが、本番には行きづらいと感じている方、また障がいのある方については、衣装、メイク、照明、音響など全て本番と同じ条件で行う最終リハーサル、ゲネプロを見ていただく機会を設けまして、市内の養護学校や障がい者施設の皆様などにお声がけをしたいと考えております。

これらの取組は、国の地域未来交付金を活用し、国の地域未来交付金を活用した事業として、事業費の2分の1を交付金で、残り2分の1に対する80%が特別交付税ということで支援していただきますので、実質負担率が10%ということで、1割です、事業を実施予定してございま

す。この事業に係る計画は、令和8年度までの3年間となっておりますが、令和9年度以降も国や県、民間の音楽芸術文化事業に対する助成金も視野に、予算を確保するとともに、市役所の体制を整えることはもちろん、市民の皆様のご意見とご協力を仰ぎながら、共に連綿と事業を推進したいと考えております。

たしか最後に今後どうするんだと、予算とか。それは一番いいのは基金を造成することですが、残念ながら長井市では基金を造成する余裕はございません。20年前から20年後やったわけですけども、その当時と全然違うわけですが、今の状況。ですから、今これでやる予定だといってもどうなるか分かりません。何年後にできるかですけれども、そのときの皆様の英知を結集し、あと、やろうという機運が盛り上がらなかつたら、これは我々が次の世代の方にこれやってくださいよなんて、それはそのときに判断すべきだと私は思います。ですからこそ、今回はちゃんとやっていてよかった、市民も喜んだし、本当にインクルーシブな地域社会づくりの基盤になったと思ってもらえるように、成功させることが重要だと思います。これからも続けるというのは、それは私はちょっと違う。例えば山形鉄道を残そうとか、JR米坂線を残そうと未来のためというのとまた違うわけですが。これはいつも継続してやっているのではなくて、20年に1回のイベントです、意義ある。

ですから、その次をどうするかについては、一番いいのは基金とか、あと体制を今の段階からつくるというのはなかなか難しいのではないのでしょうか。それよりも、そういうふうな機運を、また芸術文化をみんなで楽しめるような、そういうインクルーシブでダイバーシティのあるまちづくりを進めていくことが、私は次の世代の方たちが、どっかの節目で、やっていこうということであって、今の段階からあれをこれをして次の世代にやってもらうというのは、も

しかしたらいい迷惑と言われるかもしれないので、そんなことはございませんが、ぜひそういった意味では市民の皆様のご理解をいただいて、成功して、またご覧になった皆様も、参加いただいた皆様も、ぜひまたしたいと思ってもらうような20年前もそうだったようですが、大変盛り上がり過ぎて大変注目された、市民に喜ばれたオペラでございましたので、今回もそのように目指してまいります次第でございます。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私からは、これからの小学校の在り方について、大きく2点だと思えます。学びの在り方と、それから連携というこの2つの視点からお答えしたいと思います。

まず、今のどの市町を見ても、複式を、可能性があるから統合するというお話なんですけども、ちょっと私はちょっとまた別な考え方を持っています。それは市長の地域づくりと結びつくものがあると思えます。今後20年後を見据えた小学校はどういう小学校なんだろうかということからちょっとお話をしたいと思います。

今、国で学習指導要領の改訂が行われておりますが、これからの学校というのはこういう学校だそうです。子供たちが好きや得意を見つけ、夢や希望につなげられる学校。つまり、みんなが同じ答えを目指して勉強する教室から大きな発想の転換が求められている。ですから、机を整然と並べて、先生のほうに向かって一斉に勉強する、そういった形をまず脱却しなければならぬと思っています。これは文部科学省のほうでは、今言っているのではなくて、もう10年前からずっと言っているんですが、現場がなかなかそれに対応できないということもあると思います。

ちなみということで、AIにちょっと聞いてみました。こんな映像が出てきました。子供

はゆったりした空間の中でタブレットを使って、教室の友達だけでなく、日本の子供たちとか、世界の子供たちとつながって、自分の勉強を深めている。先生は、伴走者のように必要に応じて個々に寄り添っている。そんなものをイメージしている。多分これは今、文部科学省が求めているものと非常につながってくるなと思います。つまりここでは1クラス20名から30名の規模があつてと、今の教室イメージをどう維持するかという発想は全くないんです。

そうやって考えたときに、この本市のほうに戻りますけども、第3期の長井市教育振興計画の目標2のところに、「学校・家庭・地域が連携・協働するやさしいまち」、これを掲げております。これには、地域の多様な人々との関わりの中で、子供たちにふるさとへの深い愛着と地域社会の担い手となる当事者意識、そして社会を生き抜く力の基礎となる長井の心、これを育むこと、これこそが本市の教育の大切にしていることです。

この視点から、議員ご案内の特色ある取組を重ねた伊佐沢小学校をちょっとその視点から見ていただきたいと思います。長井市が目指す未来の学校モデルとして私たちは位置づけているところです。本校では、平成27年から文部科学省の教育課程の特例校として、全国に先駆けて英語教育に特化した独自の教育課程を編成してまいりました。現在も低学年からモジュール学習の導入や、それから図工や音楽といった様々な教科を英語でつなげていく、そういった学びの授業づくりなどをしております。次期学習指導要領が重視する、教科横断的な学び、これらを日常的にまず実践しております。

それから、さらに特徴的なのは、地域ボランティアの方々が外国語の授業に参加して、子供たちと英語で交流を図る、そういった地域一丸となった支援が確かな成果につながっていると思います。今度、地域のおばあちゃんとか、そ

ういう人たちも一緒に何か授業できないかということも考えているようです。

本市が小学校5年生を対象に実施している英語コミュニケーション能力、GTECジュニアという調査がありますけども、伊佐沢小学校、極めて高い数字を示しております。全国平均のポイント数より40ポイント高いんです。これらを考えると、小規模がデメリットなどではなくて、小規模だからこそ可能な、一人一人に合った発話機会ですとか、それから個々の習熟による指導というのが非常に効果的だということの一つの証左だなと思います。議員ご案内のとおり、中学校に進学した子供たち、中学校でも積極的に学びに向かい、学校のリーダーとしても活躍しているところですよ。

特に私は小学校というのは、その地域に根差した地域文化、それから地域の人々との豊かな関わりが一人一人の、最初に申し上げました、好きとか得意を伸ばすための欠かせない教育だと思っております。ここが小学校と中学校の大きな違いであり、市が進めている、スクールコミュニティというところの教育的な価値を非常に私は高く捉えているので、これを推進したいと思っております。

適度な規模の中でICTを用いて、他校ですとか、他の市町ですとか、世界と教室をつなぐ、そのようなことで多様な視点を確保しながら、同時に学校が地域住民と共に成長して、人と人がつながる活動の場となる。そのようなことで、様々な大人や考え方と関わる機会を創出させることができるだろうと思っております。

これは伊佐沢ですけども、例えば西根小学校は豊かな自然というのがあるわけです。それを中核にした学びというのは何ぼでもつくっていけるのだろうと思っております。これらは統合すればなかなかできないものです。そういったメリットをまず大事にしていきたいなと思っております。

今後とも長井市では子供たちの好きを育み、得意を伸ばす教育、この実現に向けて伊佐沢小学校の実践の成果も基盤としながら、各地域と密接に連携しながら、その地域の強みを生かした特色ある教育課程、これを進めていこうと思っております。

続いて、2つ目であります。ほかの機関との連携ということですけども、こどもまんなか社会の実現に向けて、こども家庭庁の設置ですとか、それからこども基本法の施行ですとか、こども未来戦略というものもあります。この中で全力を挙げている中ですけども、長井市もご存じのように、子育て、そして教育というところから、この対策に取り組んでいるところです。

その一つとして、地域資源である公共施設の機能、これを子供を真ん中に置いてどのように連携させていくのかということが、この長井市の地域づくりの大きな方針であり、また、学校にとっても課題だと考えているところです。

この方向性として、今年度進めている公共施設整備計画等の改定で、小学校、コミセン、児童センター、学童クラブ等を地域生活拠点として検討すること、これを盛り込んでおります。それから、今年度2回実施した長井市の総合教育会議、ここでも子供を真ん中にした地域生活拠点の在り方について協議をしているところです。これについては、来年度も引き続き市長部局と教育委員会が一体となって議論を進めていきたいと思っております。ここでちょっと大事にしたいのは、施設の複合化とか合築、これを検討するとハードの面ではなくて、そこに集う人々が子供と関わることで、共に学んだり、相互に学び合ったりする、コミュニティをつくっていく、その地域力を上げるということに大きく寄与するものだなと思っております。本当に適度な規模の中で、ICTを用いながら、つなぎながら、学童ですとか、それから児童センターですとか、そういったものを一緒に大きな目線の中でつく

っていきたいと思います。ここは地域拠点がないと絶対にこういう教育はできませんので、それをまず大事にしていきたいと思っていますところ。ぜひその中から、子供を見守る大人、それから支援が必要な子供に関わる大人、そして大人同士の支え、そういった発展、これが市民の幸せが生み出されていく、そんな場でありたいと思って、今、教育委員会でも考えているところですので、いろいろご指導も賜りたいと思います。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 いろいろご説明いただきました。

市長の考えも分かりましたが、私は今回の金額でちょっと驚いたことに対して、公演者が有名な方だったり、衣装だったり、そういうのがあって、ちょっとお金がかかるのではないかなと思って、ちょっとどうなのかなと思ったところで質問をしたところでした。20年前も、私ももう大好きなんで感動して拝見させていただきました。それをまた実現されるとかすばらしいなと思いますが、こういうことをずっと続けていくのは大変ではないかなという思いもありまして、いろんな形でこれからやっていけるのかなとは、ちょっとさっき市長がおっしゃったように、形こそオペラにこだわらず、今後ダイバーシティ、インクルージョンということで、いろいろ考えていただければと思います。

長井市と白鷹町にもオペラの歌手がいらっしゃいます。そういう方にも今度、今回の公演にはメンバーには入っていらっしゃいませんが、今後地元の方でもありますので、そういった方の公演も企画なさっていただければなと思うことを一つと、また今回の公演に当たりまして、文化会館の使用につきましては、練習する期間が必要となると思います。それで文化会館の使用につきましては、他団体との調整はどのようになっているか、その辺をお聞きしたいと思います。

す。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私からちょっとだけ触れさせてもらってから、詳しいことは担当の竹田戦略監のほうからお答えさせていただきたいと思います。

ちょっと鈴木富美子議員のおっしゃることはよく分かるんですが、今回地域未来交付金を活用しないとなかなかできないと思います。あとは、このオペラを組み立てるコーディネートする人がいないと駄目なんですね。それを市民の中から出せるかということです。原資はもちろんなんですけども。ですから私は大切なことは、10年後、20年後どうするというのを今考えるよりも、そういう人材を育てられるような、こういうオペラなんかきっかけに、20年前もそうなんですけど、20年前は瀧井先生がいらっしゃったからなんですよ。瀧井先生がいらっしゃらないとなかなか厳しいと思います。でも、少なくとも、瀧井先生までいなくても、長井市内のそういういろんな関係者の皆様、頑張っている皆様で、手作りでやるということではできないわけではないと思います。ただし、そのときの原資もどうするか。それはいろいろ考えてやるしかないのかなと思っています。

では、詳しいことについては竹田戦略監のほうからお答え申し上げます。

○内谷邦彦議長 竹田利弘戦略監。

○竹田利弘戦略監 地元出身というか、長井とか、あと東京等で活躍されている長井出身といえますか、長井にもいらっしゃる方でも、オペラ歌手がいますので、この一連の音楽を通じたインクルーシブ、そしてダイバーシティの理念を踏まえました演奏会にご参加いただくことにつきましては、その曲によって、いや私もそちらの専門家ではないものですから曲によって、合う声質、合わない声質、あと例えば女性ですとソプラノ、アルト、分かれています。あと男性で

すとテノール、バスと分かれておりますが、その主役とか脇を固める人の声とか、あとソプラノによっても何段階にも分かれていきますので、そういったことによって演奏会に合うか合わないかが出てきますので、そういった長井とか東京で活躍する長井出身の方、白鷹出身の方について、合うような例えば演奏会も、今後検討していきたいと思っております。その辺はアドバイザーの瀧井先生ともよく相談しながら、専門の人は専門なので、その辺は検討していきたいと思えます。

あと、先ほどありましたが、ちょっと付け加えさせていただきますと、障がいのある皆様の関わりにつきましても、例えば単に演奏会を聴くだけではなくて、例えば合唱団に入っていたとか、あと、ボランティアで受付をしたり、あとほかのところで行っているみたいなんですけども、例えばドアの開閉係がちょっと大規模な演奏会、長井の場合はありますが、そこに関わっていただくとかという、何らか自分たちが関わりを持っているよということも非常にインクルーシブ、ダイバーシティには大事だなと。あと、お気づきかと思いますが、パンフレットとかポスターに、日本で先進的な福祉活動をしている岡山の旭川荘、利用者の絵を活用させていただいております。ただ、長井の福祉施設ではまだそこまでちょっと行ってないものなので、その辺もちょっと岡山の旭川荘に学んで、近い将来には、長井の福祉施設の利用者の絵を表紙とかポスターに使ったりして、その単に聴くだけではない。聴いてほしいんですけども、聴くだけではないということでの関わりも非常に重要なのではないかと考えておりますことを付け加えさせていただきます。

あと、先ほど、もう1点ご質問ありました実は文化会館、今回、本番に当たりまして、本番が9月の5日、6日の2日間ですけども、その前の8月の29日から9日間連続で全館を押さえ

させていただいております。それで、ここは全館でございます。それで、ここに何をするかと申しますと最終的なソリスト等と歌唱の練習と、実は舞台装置もかなり入りますし、オペラピットと申して、前の4列に、3列外して4列目まで山形交響楽団のピットが必要なものですから、そちらを作ったり、あと舞台装置も当然字幕も必要ですし、あと映像の確認とか、今回今のオペラの主流は、物を、大道具を大きく作ってというのは非常にお金かかるので、映像で背景を作るというのが主ですので、そういった試験とか、位置関係とかというのがありまして、一般的にオペラ、こういった大規模なものになりますと、すごいところでは1カ月ホールを使いっ放しのところがあるみたいですけども、今回はそこまでいかないものですから、9日間をとにかく押さえさせていただきます。

ただ、それ以外に、ホールのみですけども、8月の22、23の2日間は、その9日以外に22、23は、東京のソリストをお呼びして全体的な練習をホールのみで行いたいと思っております。あと、それ以外に実は合唱団の練習、地元の合唱団です、練習を文化会館ではホールを使って9回ほど6月、8月で予定しておりますが、これはあくまでもほかの団体で使わないところを確保しているものでございます。ちょっともう一回申し上げますと、地元の合唱団は6月、8月で8回程度、3時間程度使いますが、それはほかの団体の申込みのないところでございます。

あと、本番の9月の5日、6日なぜここに設定したかでございますが、実は前は10月でございました。あと、やる時期については6月でできないとか、7月とか10月とか11月といろいろ候補がありましたが、実は毎年行われる例えば長井芸術祭とか県美展とか、あと、小・中学校、高校生の吹奏楽の練習とコンクール、コンクールなので練習、それ7月いっぱい、それではぼ取られています。あと、成人式とか戦没者追悼

式とか、あと市民表彰の市の行事とかとかぶらないように、また、なおかつ、市民文化会館の調整、いろいろお聞きしたら、例えば1週間とか10日程度を取って、一番利用が少ないのがお盆明けから9月の上旬が毎年非常に少ないということで、例えば山形交響楽団とかそのスタッフ、プレスの方にもここに日程を合わせてもらう形で、むしろ文化会館の一番利用が少ない時期を、冬は除いてちょっと冬はできないものですからということで設定したものでございまして、その辺は文化会館とも十分協議した上で、長期間になりますので、他の利用にはなるべく迷惑にならないように設定したということでご理解いただきたいと思います。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 いろいろと文化会館との調整もちょっとお聞きして安心したところでした。文化会館も自主事業があったりして、ちょっと迷惑がかかるのではないかなという心配したんですが、ちゃんと打合せの上だということを知ったので、練習される合唱団の皆さんも地元なので、ぜひ頑張って、教育長頑張ってください。

今回のオペラにつきましては、大きく出ましたので、何となく市民の皆様も理解にちょっと苦しむのかなと思う点もありましたので、あえてこの場で説明というか、質問させていただきました。それぐらいかける意味があるのだなという、改めて思いましたけども、ぜひ成功するように皆さんで応援しなくちゃいけないなと思います。

ちょっとコンサートを中心にこれからいろいろまたなさる、せっかくピアノを頂いたので、そういうこともあると思いますが、もう少し気軽に使えるような、今度コンサートなどは開くような予定などはありますかということをお聞きしてもよろしいですか、市長。市長にお聞きします。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 市で主催するというのは難しいと思います。なぜかという、瀧井先生にプロデューサーしてもらっているわけです、芸術アドバイザー。瀧井先生にお願いしないとなかなか市ではできないと。ただし、市民の皆様がなさることについては、ぜひ応援しなくてはいけないなど。あと、ただいま竹田戦略監からも申し上げたんですが、苦情は私直接聞いています。何で全部市役所が押さえているんだと。よく知らなかったの、いや、申し訳なかったと。後で聞いたらそういったことで、極力ほかの団体も使えるようにはしていますが、文化会館の場合は、高校とか中学校とか、特に吹奏楽なんかで、あるいは自主的な大きな公演なさるときに、どうしても押さえざるを得ないので、それは市の場合は、できるだけほかの団体に了承いただけるように、うまくできるだけ早い時期に、いつ頃こういうことでやりますのでお願いだということ周知をもうちょっと徹底しないと駄目ではないかということで、竹田戦略監のほうにはお願いしたところです。

ほかの例えばクラシックじゃなくていろんなもの結構あるんですが、よく言われるのは何でクラシックなのだと。もう市でそんなものでなくてちゃんとみんな分かりやすいようなのしなきゃいけないんじゃないかと、我々がするのではないです。音楽はそれぞれの文化会館は、団体で自主的に行っていただく。あとは興行とかについては、私どもはできませんので、ですからそういったところは指定管理者とか、あるいは指定管理者のほうで、採算取れるかどうかの問題は別として、南陽のように、あのぐらいの規模ですと採算取れるような有名な著名な方連れてこられるんですが、一般に知られている方。だけど長井のように880席ではなかなか難しい。それこそ朝昼晩と、朝昼晩ではないでしょうけど、午後の部と夜の部と、次の日の午前中の部

とかしないと多分採算取れないので、ですから、市のほうでクラシックではなくて何か別のものをやれと言われると、瀧井先生がいるからできるわけであって、しかも非常に好意的に安価で、市なんかでも依頼できる金額でご協力いただいているわけなんですね。ですからそれが、ではほかの13市の中で、市が主体でそんなことやっていますか、やっているところありますかと、ないですよ。

ですから、そういった意味で言えば、むしろ提案していただきたいんですね。こういう方をお願いして、市でちょっと補助金をもう少し手厚くしてやれば、もっとやってくれるところあるのではないかと、正直私本当によく謝っているんですが、芸術文化関係は本当に分からないもので、むしろ提案していただければ。あと、至らないところについては私のほうでも、指定管理者なりあるいは担当のほうにも願いますので、ぜひそういったところでご協力をと。

なおちょっと竹田のほうからも少しお話しさせていただきますと思いますので、願います。

○内谷邦彦議長 竹田利弘戦略監。

○竹田利弘戦略監 今、市長が申し上げましたとおり、中にはなかなか接することが少ないクラシック音楽を通してということが一つございます。それで私も実は養護学校に文化会館のピアノを寄贈しました。それで今、西置賜校では前のヤマハの40年ぐらい前のフルコンサートグランドピアノを使っているわけですが、そこで長井市民文化会館でやった川崎翔子さんとか佐野隆哉さんが同じ曲を弾いて、養護学校の生徒が最初、大丈夫なのかなと思っていたところ、むしろ調律をやっている吉田さんというちょっと著名な調律家なんですけども、竹田さん、それは違うよと。ちゃんとした音楽だからこそ養護学校の子供たちがきちんと聴くんだよということを言われました。瀧井先生がちょっと違う

ところでも、そういったものでなくて、クラシックの中でもちょっと万人受けすることをやったら、そういった子供たちとか障がいのある方が、騒ぎ出したと。むしろきちんとしたものを聴かせれば聴かせるほど集中して聴くよということがございましたので、養護学校のほうからも、今度いつ来てくれるのということでもかなり評判がよろしいです。

あと、相川麻里子さんというバイオリニストと子供たち、あとちょっとご高齢の方からも、ピアノを弾いて、相川麻里さんがバイオリンやっているわけですけども、あの取組につきましても、実は最初1年で終わりになるかなとちょっと思っていたところ、子供たちからもう一回やってくれないかと。あと、ちょっとご高齢の女性の方からもこういう機会はまずないのでぜひ取組に加えてほしいということをおっしゃって、継続して今やっているわけでございますけれども、今ちょっと表現がいいか悪いかですけど、テレビのコマーシャルでも、クラシック音楽がかなり使われております。もちろん創作の音楽もありますが、大部分、半分以上はクラシックの音楽でございます、そういったものを聴くと、ずっと頭の中に入ってくるんだなと感じていますので、そういったことを基本にしながら、ただ、市長がちょっと申し上げましたが、そういった民間の団体とか、あとこういつた一連の取組の中でピアノを活用して、ちょっとクラシックと違う分野というのについては、市民の皆様のご要望もお聞きしながら、何ができるかというのを探っていく必要があるのかなとちょっと感じました。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 オペラの公演につきましては以上、ありがとうございます。

教育長にお伺いいたします。これからの教育の仕方についていろいろお話しいただきました。ちょっと私たちが、私の頭の中でAIとか、い

ろいろついていけないんですけど、想像するには、教室の中にいろんな、仮想空間とか何かそういうのは、今よく話がありますけど、その子供たちがいろんな、例えば、媒体は使っていますので、子供いなくても、例えば学校と学校で話をしたり、そういうことはできるのかなど。例えば伊佐沢と西根で画面を通して話をしたり、あとお互いに行ったり来たりするようなことも小規模だからこそできることもあると思いますけど、そこに至るまではなかなかちょっと大変かなと思いますけど、その辺どうでしょうか。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今まさにそのことが、いや大変ではなくて多分来年からできると思います。実は教育委員会のほうでそういった小規模でやったときに、例えば具体的に体育どうするのだとか、そういうのもあるわけですけども、そういった連携も含めながら、在り方について来年学校で話し合う計画を立てておりますし、今の長井市が整えているICTはすぐにでもできますし、実際にはほかの学校との交流なんかでも使っているわけです。それがあから休んだ子が教室とつないで今勉強できるわけですので、それについては、あとは仕組みをどうか考えるかということで学校教育課、それから次長をはじめ、そちらのほうで構想も立てて来年度テーブルにのせて、それを一つの仕組みとしてできるようにしていくつもりであります。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 学校に来て、机を並べて、みんなとするという教育は違うかなと私も思います。子供たちが学校に行けない理由はちょっといろいろあると思いますが、皆さんとつながって、そこで学んだことを社会に出ても、ちっちゃいときからのつながりがないと、社会に出ても孤独になっちゃうのではないかなと心配しますので、これからの教育はますます大事だなと私的には思いますので、ぜひ来年か

らの教育に期待したいと思います。

少ない学校だから多い学校だからということではなくて、学校に行けない子供は学校に行けない理由がある。今いろいろほっとなるスクールとかいろいろ教育委員会のほうでは、手厚くなさっていますが、子供が行ける場所を選ばれる場所もすごく必要だと思っておりますが、その辺につきましては、どのようにお考えですか。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 まさにそこだと思います。今の目指している教育環境、繰り返しICTのことを言いますが、そこが自分の学びを深めたり関わりを広げたりするという、一番大切なものがあると思います。それからもう一つタブレットというのは、発達障がいの子供については非常に有効なものなんです。だから本当にこれからは、一人一人の特性と、それから好きとか得意をどうやって支援していくか、そのためのICTであり、一人一人ということだと思います。

ちょっとこれは個人的な見解ですけども、今はそろえる学習なわけです。3年生だったらここまでみんなで勉強しなさい、こういう技能をつけなさい。恐らくそういった学習指導要領そのものも変わっていくのではないかなんて、この間、県の教育委員会の方ともお話をしました。まさに私たちが今考えているものではないような学び、もしかしたら学校も今言ったように、学校に必ず行かなくてははいけないなんていう時代でなくなるのかもしれない。そういったものも見据えての20年後、30年後なので、市長も言うように、今この学校をどうやって維持するかということで、進めていくものではないと思います。加えてお話しさせていただきました。

○内谷邦彦議長 9番、鈴木富美子議員。

○9番 鈴木富美子議員 オペラの話から学校教育の話から、皆様にいろいろお聞きして、ぜひいろんな面で進めていただければと思います。

教育も大事だし、コンサートも大事なダイバーシティという名目にありますが、いろんな面で、私、勉強不足でした。先ほど戦略監からドアを開ける人も合唱団の中にもという、いろんな方がいていろんなものができているんだなということに改めて思ったところでした。

ますます長井市がよくなることを祈念いたしまして、私からの質問といたします。

散 会

○内谷邦彦議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 2時34分 散会